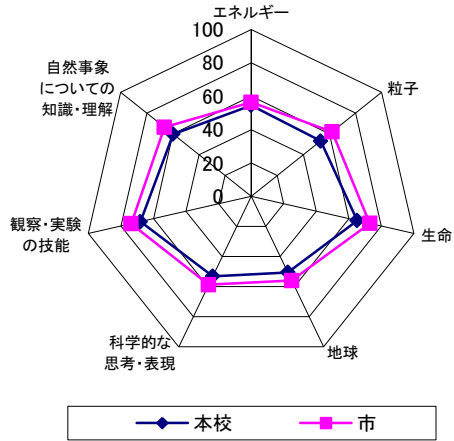


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.6	56.4	49.9
	粒子	53.3	62.0	57.4
	生命	65.1	72.9	67.1
	地球	50.5	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	53.1	58.8	52.1
	観察・実験の技能	68.0	73.8	67.6
	自然事象についての知識・理解	59.9	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○光の屈折、全反射は半数以上の生徒がその性質について理解ができていた。 ●電力量の求め方は著しく正答率が低く、さらに電気器具に知識を活用できない生徒が多かった。 ○力学的エネルギーについてはこの調査の直前に履修したので正答率が高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・光の性質では実験の内容を理解できるように実験のまとめ、問題演習を工夫する。 ・オームの法則を学習した後の学習内容は身に付きにくいので、演示実験や視聴覚教材などを積極的に活用して学習意欲を高めるようにする。
粒子	●炭酸水素ナトリウムと塩酸の反応と気体が発生する化学反応については3割程度しか正解していない。また、銅イオンについても3割を切っている。他の内容と比べても正答率が低い。	・炭酸水素ナトリウムは1, 2年で扱う物質なので覚えられるように例を提示し、ノートに書く回数を増やす。 ・イオンの説明時にモデルを提示するなど視覚的に理解できるようにする。
生命	○植物のはたらきについてはだいぶ理解しているが、対照実験の条件を考えるとところどころつまづきが見られる。全体的には動、植物の知識理解が高い。	・植物のはたらきなどの実験を行うときに条件を考えたり、明示して意識して実験に取り組めるようにする。
地球	●火成岩についての理解は市の正答率とほぼ同じであるが、結晶のでき方をモデル実験で確かめる問題では鉱物の結晶とモデル実験を比較するところどころつまづきがある。気象の問題でも結果からの考察ができない生徒が多く見られた。	・実験の結果から何がわかるのか考える練習、自分の考えを表現する練習を何回も行い、習慣化させるようにする。